

協会の概要
全老健



公益社団法人 全国老人保健施設協会
Japan Association of Geriatric Health Services Facilities



ごあいさつ



公益社団法人 全国老人保健施設協会
会長 **東 憲太郎**

第13回定時社員総会において会長候補者にご推挙いただき、その後の理事会で、公益社団法人全国老人保健施設協会(略称:全老健)の第8期会長に選任されました。

平成26年に会長に選任されてからの10年は、無我夢中で職務を遂行してまいりました。約90%の組織率を誇る全老健をまとめ、全国の会員施設が同じ方向を見て進むこと、また、介護関係団体が一致団結することを大きな目標として活動いたしました。その成果の一つが、令和6年度の診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬改定における介護報酬のプラス1.59%の改定率です。

今後も老健施設の機能を高め、国、医療業界、そして国民の皆さまに広く知っていただくために努力してまいります。

我が国はこれから、急速な少子高齢化に伴う、生産年齢人口の減少、要介護高齢者、とりわけ在宅の要介護高齢者の増加という状況に陥ります。「医療」と「介護」という縦割りの考え方では対応しきれない現実があります。

そのようななか、在宅の要介護高齢者を支えるのは、「在宅医療」と「在宅介護」です。老健施設は在宅の要介護高齢者に「医療」「リハビリ」「通所リハビリ」「訪問リハビリ」「泊まり」「一定期間の入所」を随時提供できる唯一無二の施設です。このような「利便性」が高く、中でも質の高い医療、リハビリ、介護を提供できる高機能な老健施設が地域で評価されるのではないのでしょうか。

財源も人材もより限られてくる将来に向けて、今ある社会資源(老健施設)を有効に活用することが重要です。医療・介護の両分野で、スリム化、ダウンサイジング化、効率化が求められる時代になることも考えておく必要があるでしょう。

これからも老健施設がより良い方向に進めるよう、全力を尽くして活動してまいります。

引き続き、皆さまのご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

東 憲太郎

目的

本協会は、全国の介護老人保健施設の一致協力によって、高齢者等が自立して生活できるよう、地域社会の健全な発展を図るとともに、保健医療サービス及び福祉サービスの質の向上確保に係る調査研究等を行い、もって高齢者等の保健医療の向上及び福祉の増進に寄与することを目的とする。

公益社団法人として

本協会は、平成23年7月25日、内閣府公益認定等委員会による公益認定を得て、同年8月1日に「公益社団法人全国老人保健施設協会」となった。

公益認定には、団体の目的に公益性があり、そのための活動能力・体制があると認められることが必要で、本協会の活動が公益性のあるものと認められ期待されているということの証である。

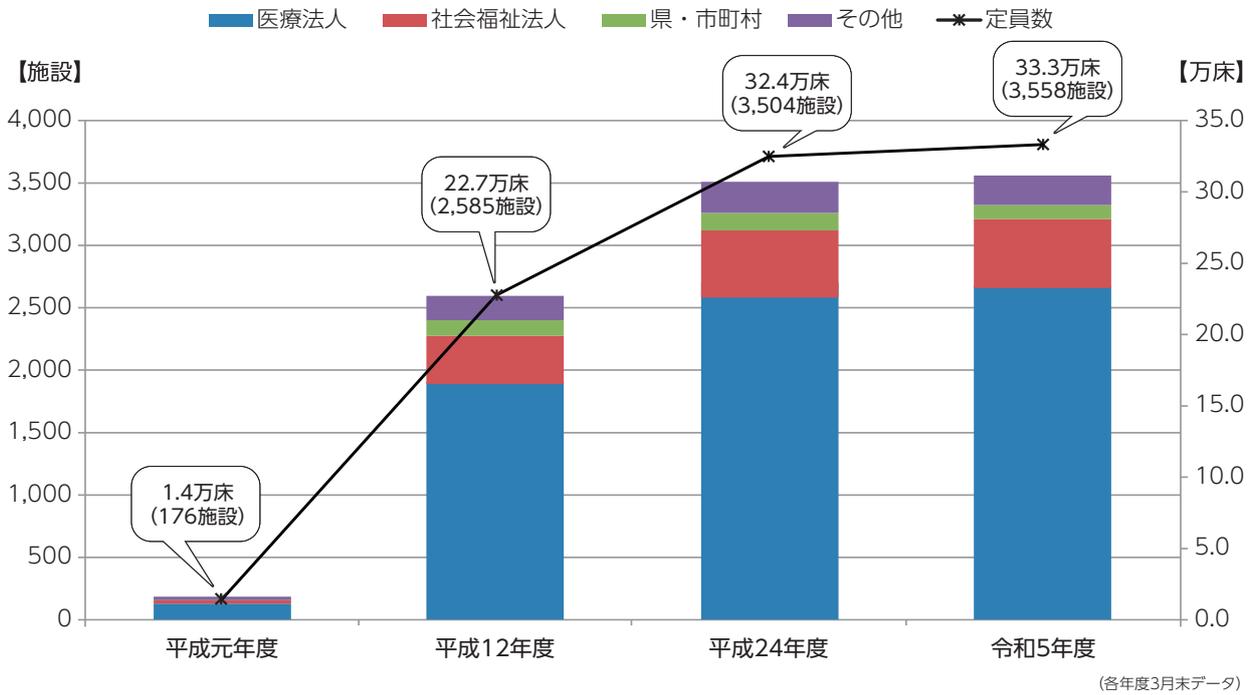
2025年の地域包括ケアシステムの構築に向け、介護老人保健施設がその中核を担うべく、ますます積極的に活動することが必要となる。

会員

本協会の会員は、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 正会員** 本協会の目的に賛同して入会した、介護保険法に規定する介護老人保健施設の代表者(代表者はその施設の開設者又は管理者とする。ただし、特段の事情のある場合は、当該開設者が指定する者も可とする。)
なお、代表者を変更した場合は、別に定める手続きによって変更することができる。
- (2) 準会員** 都道府県知事の許可を受けて介護老人保健施設を開設しようとする者(厚生労働大臣が介護老人保健施設の開設者として適当であると認定した者を含む。)又は当該施設開設準備責任者であって、本協会の目的に賛同して入会した個人
- (3) 賛助会員** 本協会の事業を賛助するため入会した団体又は個人
- (4) 名誉会員** 本協会に功労のあった者又は学識経験者で社員総会において推薦された者

会員施設数と入所定員数の推移



全国で約3,600の会員施設が、
約33万人の高齢者を受け入れています。

設置主体		施設数	構成比 (%)	入所定員数(人)	平均定員数(人)
医療法人		2,659	74.9	251,779	94.7
社会福祉法人		549	15.5	51,445	93.7
市町村		112	3.2	8,050	71.9
その他	済生会	26	0.7	2,053	79.0
	財団法人・社団法人	98	2.7	9,280	94.7
	地域医療機能推進機構	23	0.7	2,190	95.2
	日本赤十字社	6	0.2	475	79.2
	厚生連	21	0.6	1,849	88.0
その他	55	1.6	4,771	86.7	
合計		3,549	100.0	331,892	93.5

職種	従業者数(人)
医師	4,445
歯科医師	24
薬剤師	1,220
看護師	25,916
准看護師	15,799
介護職員	114,642
支援相談員	9,355
理学療法士	10,153
作業療法士	6,629
言語聴覚士	1,616
管理栄養士	5,322
栄養士	872
歯科衛生士	385
介護支援専門員	6,438
調理員	6,452
その他の職員	16,450
総数	225,718

全老健正会員施設加入状況(令和6年7月末時点)

*数値は小数点第二位以下を四捨五入しているため、計に一致しない場合がある。

全国で約23万人のスタッフが、
介護老人保健施設を支えています。

※ここで紹介したのは入所利用者のみです。通所リハビリテーションなどの利用者を含めるとさらに多くの方々にご利用いただいています。

令和4年介護サービス施設・事業所調査(厚生労働省)より

介護老人保健施設の理念と役割

介護老人保健施設は、利用者の尊厳を守り、安全に配慮しながら、生活機能の維持・向上をめざし総合的に援助します。また、家族や地域の人びと・機関と協力し、安心して自立した在宅生活が続けられるよう支援します。

01

包括的ケアサービス施設

利用者の意思を尊重し、望ましい在宅または施設生活が過ごせるようチームで支援します。そのため、利用者に応じた目標と支援計画を立て、必要な医療、看護や介護、リハビリテーションを提供します。

02

リハビリテーション施設

体力や基本動作能力の獲得、活動や参加の促進、家庭環境の調整など生活機能向上を目的に、集中的な維持期リハビリテーションを行います。

03

在宅復帰施設

脳卒中、廃用症候群、認知症等による個々の状態像に応じて、多職種からなるチームケアを行い、早期の在宅復帰に努めます。

04

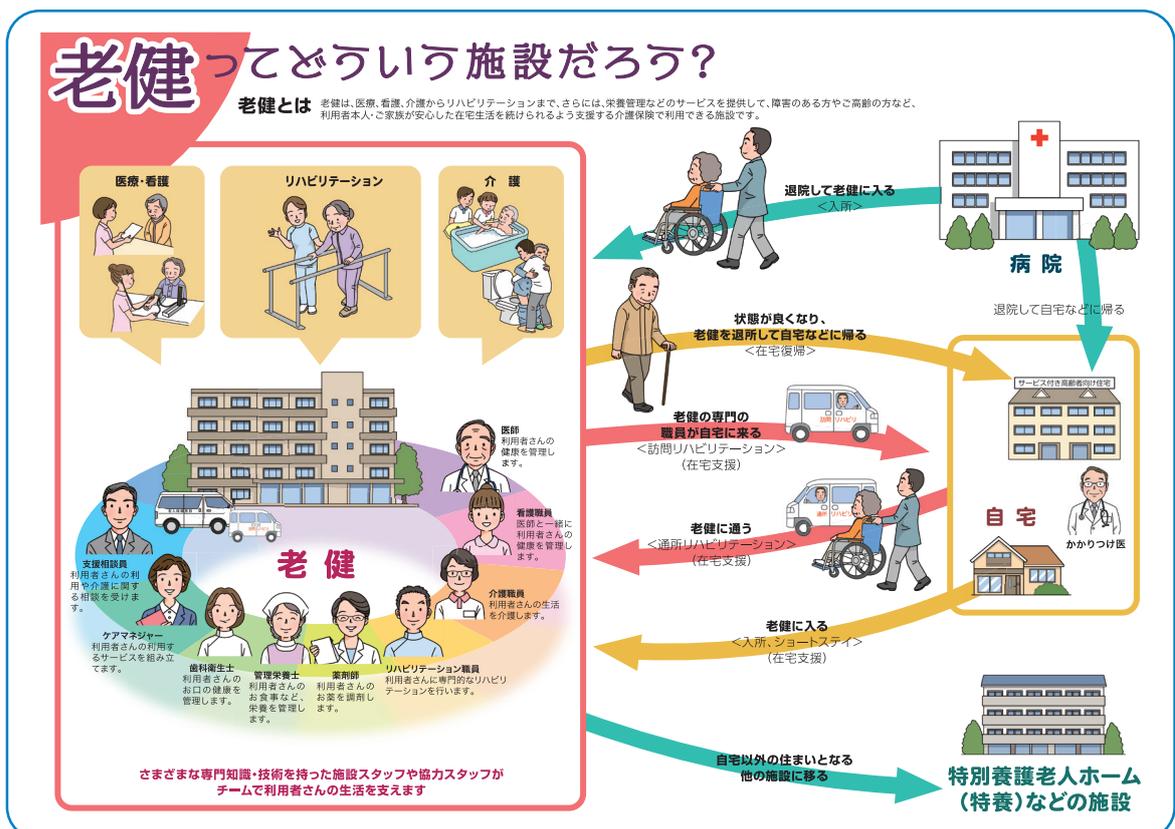
在宅生活支援施設

自立した在宅生活が継続できるよう、介護予防に努め、入所や通所・訪問リハビリテーションなどのサービスを提供するとともに、他サービス機関と連携して総合的に支援し、家族の介護負担の軽減に努めます。

05

地域に根ざした施設

家族や地域住民と交流し情報提供を行い、さまざまなケアの相談に対応します。市町村自治体や各種事業者、保健・医療・福祉機関などと連携し、地域と一体となったケアを積極的に担います。また、評価・情報公開を積極的に行い、サービスの向上に努めます。



協会の活動

1 全国大会事業

全老健の設立理念に則り、全国の介護老人保健施設関係者が参集し、高齢者等の保健医療の向上及び福祉の増進に寄与する研究等を行い、相互研鑽を図ることを目的とした全国大会を年1回開催しています。

平成2年に山梨県で開催された第1回大会を皮切りに全国各地で開催され、令和5年で第34回となりました。



2 教育・研修、人材育成事業

介護老人保健施設と地域ケアにおけるサービスの質の維持・向上をめざし、全老健では会員施設の役職員等を対象に、職員基礎研修会、中堅職員研修会、管理者(職)研修会等をはじめ、制度改正に合わせた伝達講習会、リハビリテーション、ケアマネジメントなどの専門分野別講習会等を開催しています。さらに、指定研修施設において研修を行う実地研修事業にも積極的に取り組んでいます。

そのほか、認定資格制度事業、人材確保事業に着手し、ケアを担う優れた人材の育成をめざしています。



3 学術・調査研究 (介護保険対策)事業

時代のニーズに対応したサービスを提供するため、全老健ではさまざまなテーマに関する調査・研究を行うとともに、その成果を活かした、業務指針、マニュアル類の整備等に積極的に取り組んでいます。

また、施設の管理・運営や経営実態等に関するデータ収集を行い、介護保険制度上の課題を把握し、介護老人保健施設が地域の社会資源としてその機能を発揮するための政策提言等を行っています。

4 広報・情報関連事業

全老健の活動と高齢者ケアに関する最新のトピックスを紹介する機関誌『老健』（毎月25日発行）、ホームページと連動して新着情報をいち早く伝えるメールマガジン<e-roken>（月2回配信）等、複数のメディアを活用し、会員施設に常に的確な情報を届けています。

また、業務マニュアルの監修、制度改正に即した通知等資料集の発行や、介護老人保健施設と介護保険制度を利用者に周知し、適切な利用を促すための書籍等の制作を行っています。

令和2年には全老健イメージキャラクター「ROKENくん」を制作し、より多くの方々へ介護老人保健施設を知ってもらおうきっかけとして活用しています。

5 安全推進災害対策事業

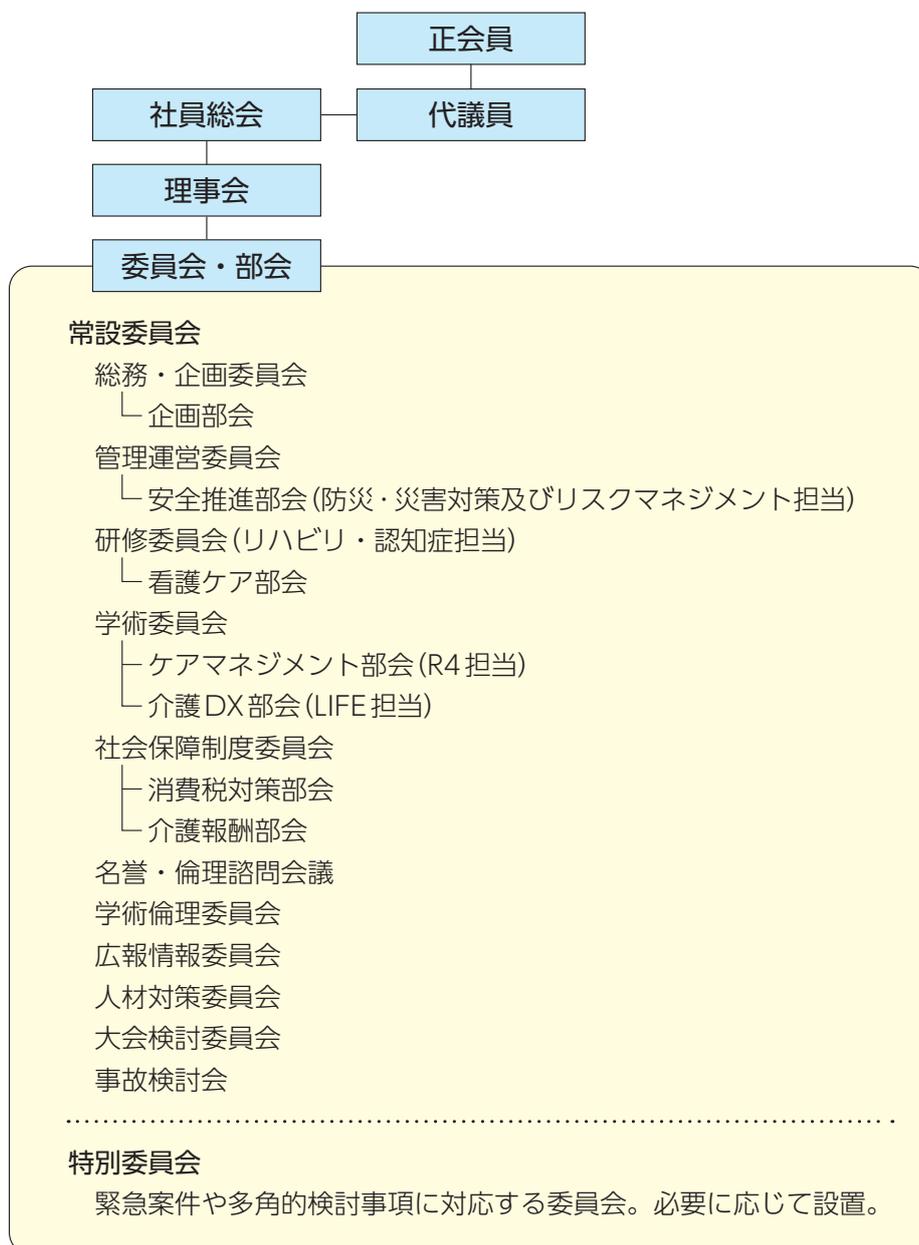
利用者の安心・安全をめざして、年2回の安全推進月間を設け、会員施設に向けた注意喚起と安全確保を呼びかけています。

また、平成28年には、災害等の発生時に被災地にある老健施設を支援することを目的として全老健災害相互支援プロジェクト(DMSP: Disaster Mutual Support Project for ROKEN)を立ち上げました。有事の際には、DMSPの各プロジェクトを運用し、国や自治体、都道府県支部等と連携しながら、迅速に人的支援・物的支援等を行っています。

協会の組織と沿革

協会の組織

- 社員総会：事業報告や収支決算といった協会運営の重要事項を審議・承認。
各事業年度終了後3箇月以内に1回開催。
- 理事会：本協会の業務執行の決定などを行う。
毎事業年度に4箇月を超える間隔で2回以上開催。



都道府県支部・ブロック

全国47都道府県に設置され、会員とより近い距離で地域の特性に応じた活動を行っています。

当協会の会員は、各都道府県支部に所属しています。さまざまな場面において、中央組織である当協会と各地の都道府県介護老人保健施設の団体が協力し、介護老人保健施設の発展に貢献しています。

また、複数の都道府県支部が属するブロックを設置しています。現在、6つのブロックがあり、各ブロックは地域の状況等に基づき、さまざまな活動を行っています。

協会の沿革

昭和62年	2月16日	厚生省によるモデル老人保健施設7ヶ所の指定
	4月1日	モデル事業スタート
昭和63年	4月1日	老人保健施設の本格実施
平成元年	11月23日	社団法人全国老人保健施設協会設立総会 会長に矢内伸夫氏(老人保健施設伸寿苑)選任。(～平成7年3月31日。3期)
	12月22日	社団法人全国老人保健施設協会設立許可
平成2年	3月19日	社団法人全国老人保健施設協会第1回総会
	6月30日	第1回全国老人保健施設大会(山梨県)
	7月	機関誌『老健』創刊号刊行
平成6年	3月25日	社団法人全国老人保健施設協会 創立5周年事業開催
平成7年	2月28日	社団法人全国老人保健施設協会第3回通常代議員会。第4期役員選出、会長に山口昇氏(老人保健施設みつぎの苑)選任。(平成7年4月1日～平成15年3月31日。4期)
平成8年	9月11日	協会ロゴマークの制定
平成9年	7月1日	インターネット上にホームページを開設
平成11年	11月19日	社団法人全国老人保健施設協会 創立10周年記念事業開催
平成15年	1月15日	メールマガジン「e-roken」創刊号配信
	2月7日	社団法人全国老人保健施設協会第19回通常代議員会。第8期役員選出、会長に漆原彰氏(介護老人保健施設高齢者ケアセンターゆらぎ)選任。(平成15年4月1日～平成19年3月31日。2期)
平成17年	1月	「介護老人保健施設の理念と役割」を改定
平成19年	2月16日	社団法人全国老人保健施設協会第27回通常代議員会。第10期役員選出、会長に川合秀治氏(介護老人保健施設電問之郷)選任。(平成19年4月1日～平成23年3月31日。2期)
平成20年	6月5日	「介護職員の生活を守る緊急全国集会～いまこそ、私たちの声を国会に、そして官庁に!!」開催(東京・日比谷公園大音楽堂。老健連盟主催・全老健共催)
	9月	介護老人保健施設リスクマネジャー第1期生認定
平成21年	10月9日	社団法人全国老人保健施設協会 創立20周年記念事業開催
平成23年	2月17日	社団法人全国老人保健施設協会第35回通常代議員会。第12期役員選出、会長に山田和彦氏(介護老人保健施設リバーサイド御薬園)選任。(平成23年4月1日～平成24年6月29日。1期)
	8月1日	公益社団法人登記完了
平成24年	6月29日	公益社団法人全国老人保健施設協会第1回定時社員総会。第2期役員選出、会長に木川田典彌氏(介護老人保健施設気仙苑)選任。(～平成26年6月27日。1期)
平成26年	6月27日	公益社団法人全国老人保健施設協会第3回定時社員総会。第3期役員選出、会長に東憲太郎氏(介護老人保健施設いこいの森)選任。 *現会長。6期目
平成27年	1月8日	「『介護』を育む緊急全国集会」開催(東京都・日比谷公会堂)
平成28年	6月	全老健災害相互支援プロジェクト(DMSP)を制定
平成29年	11月15日	「介護の現場を守るための署名」及び「介護の現場を守るための財源確保の要望書」を賛同団体とともに内閣総理大臣、財務大臣、厚生労働大臣に提出
令和元年	5月30日	LINE公式アカウント開設
	8月1日	公益社団法人全国老人保健施設協会 創立30周年記念事業開催
令和2年	10月27日	全老健イメージキャラクター「ROKENくん」 商標登録
令和3年	5月20日	Facebookに全老健の公式ページを開設
令和5年	5月16日	内閣総理大臣に「物価・賃金高騰対策に関する要望書」を提出
	10月19日	内閣総理大臣に「物価高騰対策および介護現場で勤務する職員の処遇改善に関する緊急要望」を提出

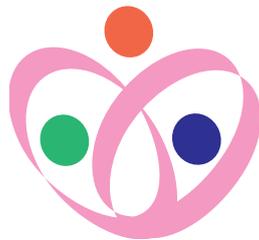
全老健イメージキャラクター「ROKENくん」

「ROKENくん」の由来

犬は古くから人間のパートナーとして、介護老人保健施設は介護を必要とする高齢者の自立を支援し、在宅生活を支援するパートナー施設として、「老健施設」も「犬」も人との関係性において通じています。

また、「ROKEN」(ローケン)という音の響きも犬を想起させると同時に、愛らしい犬をモチーフにすることで多くの人々に老健施設を知っていただくことに役立つと考え、犬を起用しました。





全老健マークの意味

正円三つが、介護老人保健施設を象徴する色になります。

「オレンジ」は、太陽や炎の色で「明るさ」。

「グリーン」は、若葉や木の芽の色で「若さ」。

「紫」は、古くから貴いとされる色で「質の高さ」を表します。

円を取り巻くリボン状のものは「心」を示す「ハート型」になっています。

HP



LINE



Facebook



ROKENくん

公益社団法人 全国老人保健施設協会

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル6階 TEL:03-3432-4165 FAX:03-3432-4172
<https://www.roken.or.jp>

(2024年10月作成)